

「杜の都環境プラン」定量目標の 進捗状況（令和7年度実績）について

(参考) 杜の都環境プランー環境都市像と施策体系ー

【環境都市像】 杜の恵みを活かした、持続可能なまち

「全ての主体が環境のことを考え、行動するまち」を目指します

「『杜の都』の資源が活用され、循環するまち」を目指します

「環境への取り組みが新たな価値を生み、成長を促すまち」を目指します



【分野別の環境施策】

脱炭素都市づくり

自然共生都市づくり

資源循環都市づくり

快適環境都市づくり

行動する人づくり

【重点的な取り組み】

輝く！
グリーン&クリーン都市プロジェクト

つながる！
エネルギー循環プロジェクト

広がる！
エコアクションプロジェクト

(参考) 杜の都環境プランの分野別の定量目標 [R 7 中間改定後]

1. 脱炭素都市づくり

地球温暖化対策推進計画

①温室効果ガス排出量

〈中期目標〉 2030年度に2013年度比で55%以上削減(森林等による吸収量を含む)

〈長期目標〉 2050年までに実質ゼロ

2. 自然共生都市づくり

②みどりの総量 ➡ 現在の水準を維持・向上させる

③猛禽類の生息環境 ➡ オオタカ・サシバの生育環境を維持・向上させる

④自然共生サイトの数 ➡ 認定された自然共生サイトの数を15か所以上とする

⑤身近な生きものの認識度 ➡ 市民の認識度を現在よりも向上させる

3. 資源循環都市づくり

一般廃棄物処理基本計画

⑥ごみ総量 ➡ 2030年度に33万トン以下

⑦ごみの最終処分量 ➡ 2030年度に4.0万トン以下

⑧1人1日当たりの家庭ごみ排出量 ➡ 2030年度までに400グラム以下

⑨家庭ごみに占める資源物の割合 ➡ 2030年度までに30%以下

4. 快適環境都市づくり

⑩環境基準の達成 ➡ 大気、水、土壌及び騒音に関する環境基準を達成する

⑪環境に関する満足度 ➡ 8項目の満足度を現在よりも向上させる

5. 行動する人づくり

⑫日常生活における環境配慮行動 ➡ 25項目の実践割合を現在よりも向上させる

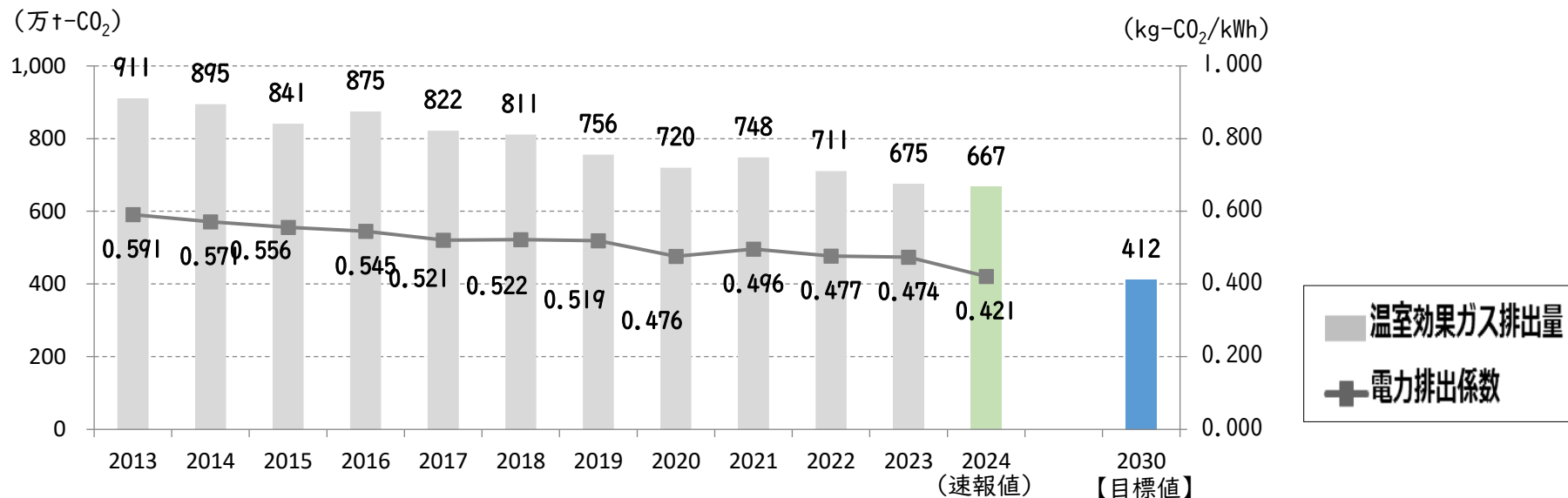
※進捗については、毎年度把握するもの(①, ④, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩)と5年ごとに把握するもの(②, ③, ⑤, ⑪, ⑫)がある。

脱炭素都市づくり

① 温室効果ガス排出量

定量目標	目標・基準	実績
(中期目標) 令和12年度(2030年度)における排出量を平成25年度(2013年度)比で55%以上削減する(森林等による吸収量を含む) (長期目標) 令和32年(2050年)排出量実質ゼロを目指す	55%以上削減 (令和12年度) ※令和6年3月に35%から55%以上に見直し	26.8%削減 (令和6年度<速報値>)

- ・ 令和6年度の温室効果ガス排出量(速報値)は667万t-CO₂(前年度比▲1.3%)となり、基準年度である平成25年度と比較して26.8%減少している。
- ・ 温室効果ガス排出量は、着実に減少しているが、目標の確実な達成に向けては、これまで以上に取り組みを加速させることが必要。



自然共生都市づくり

④自然共生サイトの数 ※R8.3中間改定にて追加

定量目標	目標・基準	実績
認定された自然共生サイトの数を15か所以上とします	15か所以上 (令和12年度)	8か所 (令和7年度末)

- ・令和7年度は、市有地での認定取得と民有地等の認定取得支援を進め、これまで認定された4カ所に加え、仙台三高時習の森や水の森公園の一部など、新たに4か所の認定を取得した。

仙台三高時習の杜



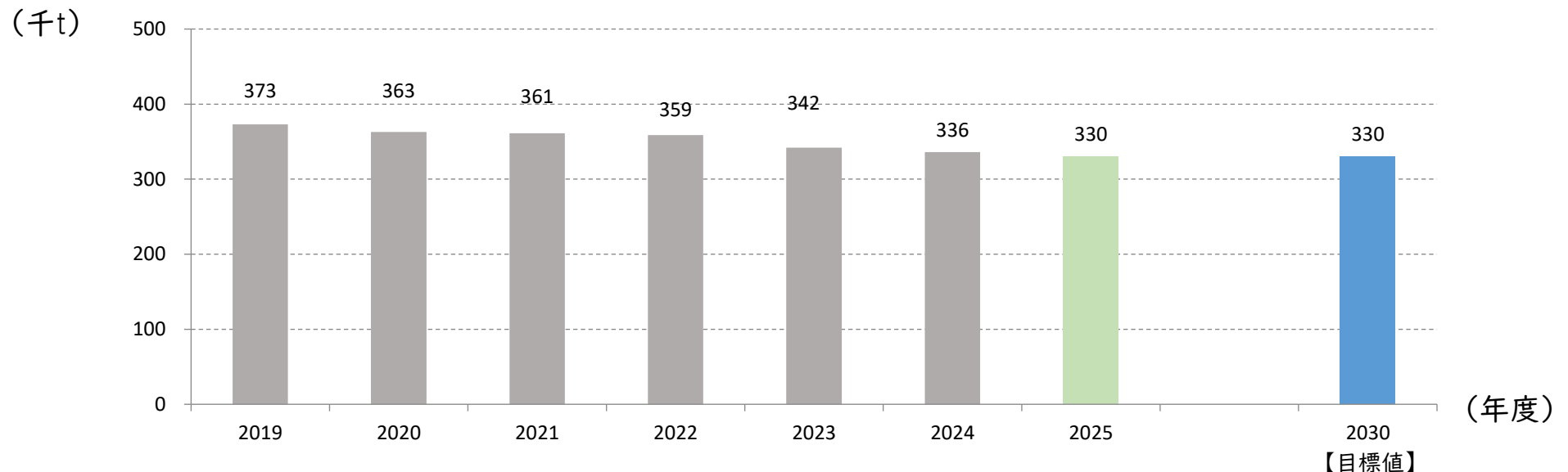
水の森公園



⑥ごみの総量

定量目標	目標・基準	実績
令和12年度（2030年度）に330,000t以下にする	330,000t以下 （令和12年度）	330,249t （令和7年度）

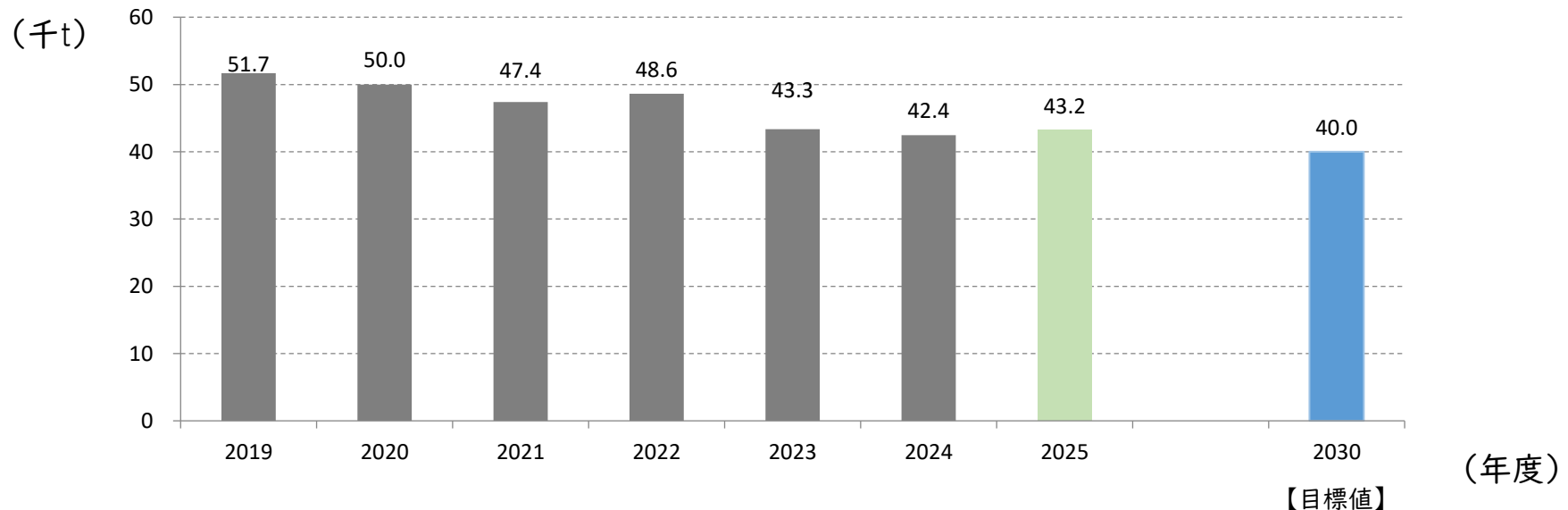
- ・ 令和7年度のごみの総量は330,249 t（前年度比▲1.7%）となり、中間目標である350,000 t（令和7年度）を達成した。
- ・ 最終目標の達成に向け、引き続き資源物の分別や、食品ロス等のごみの発生抑制を進めていくことが必要。



⑦ごみの最終処分量 ※R8.3中間改定にて目標値見直し

定量目標	目標・基準	実績
令和12年度（2030年度）に40,000t以下にする	40,000t以下 （令和12年度）	43,250t （令和7年度）

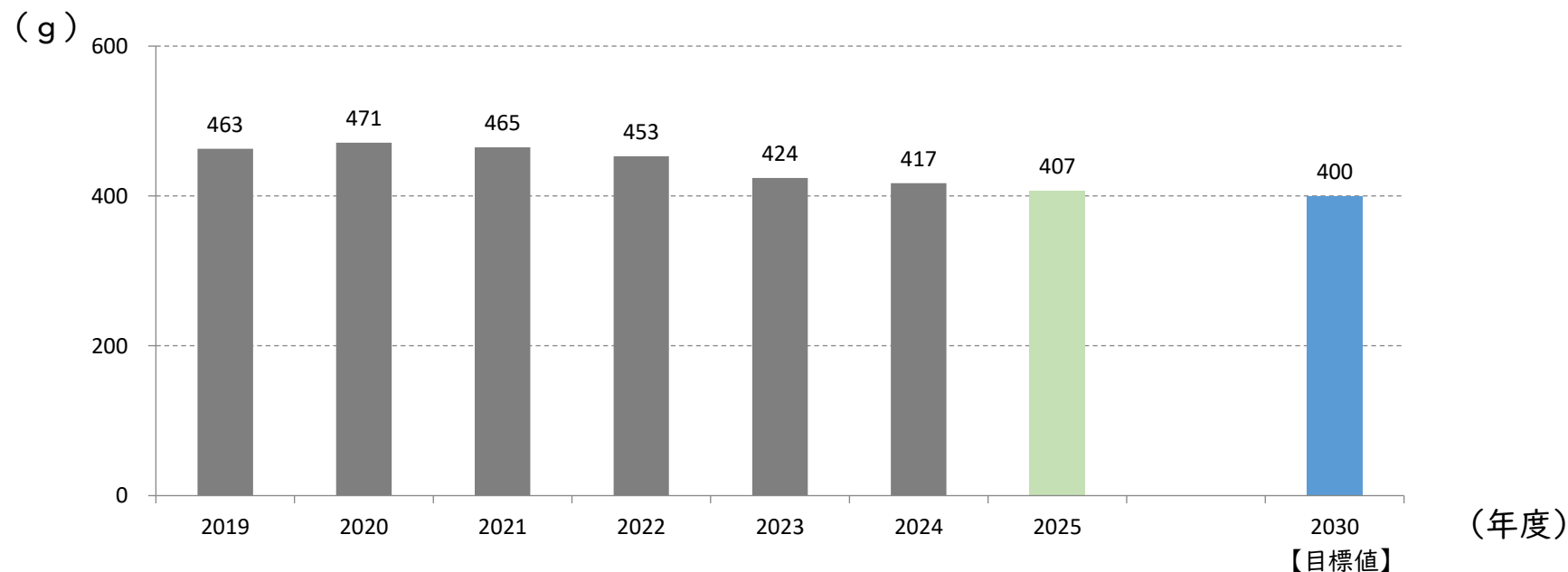
- ・ 令和7年度の中間改定において、最終目標の見直しを実施（46,000t→40,000t）。
- ・ 令和7年度のごみの最終処分量は43,250t（前年度比+1.9%）となった。



⑧1人1日当たりの家庭ごみ排出量

定量目標	目標・基準	実績
令和12年度（2030年度）に400g以下にする	400g以下 （令和12年度）	407g （令和7年度）

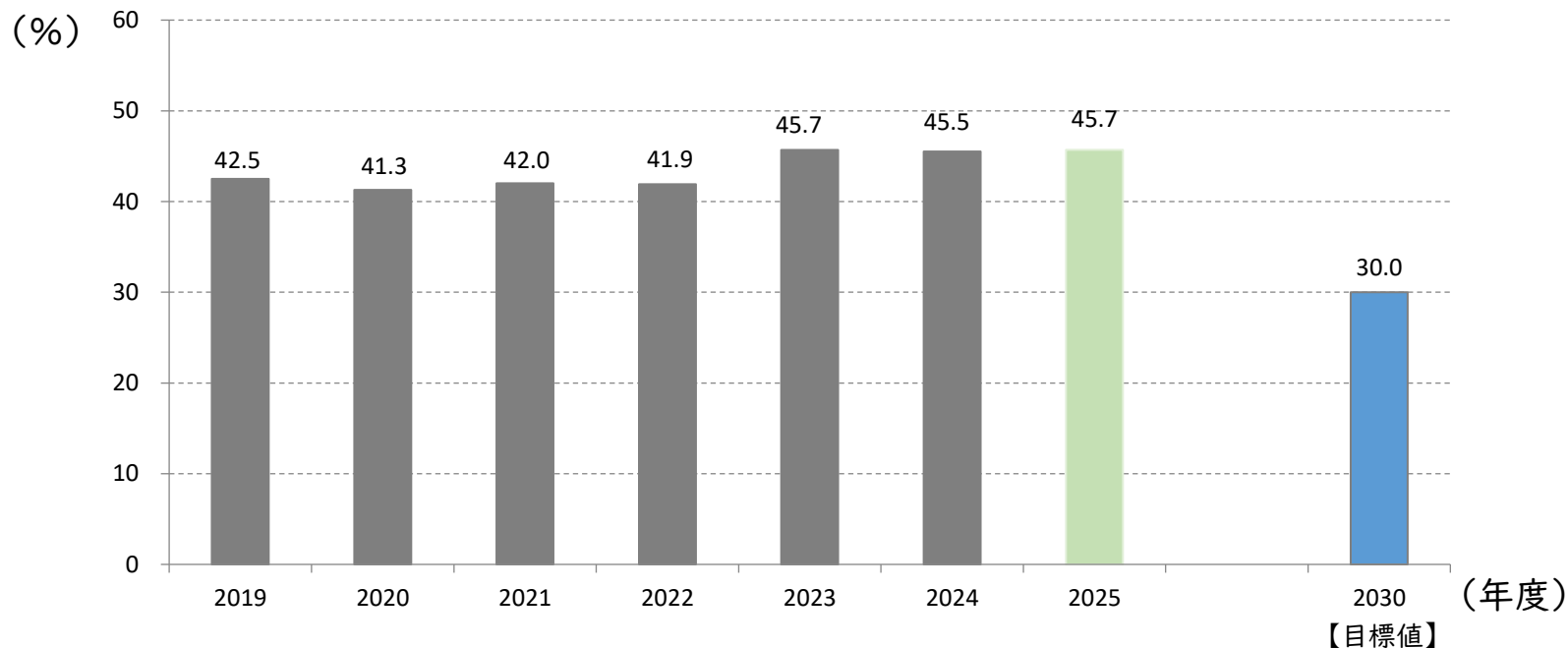
- ・ 令和7年度の1人1日当たりの家庭ごみ排出量は407g（前年度比▲2.4%）となり、中間目標である430g（令和7年度）を達成した。
- ・ 最終目標の達成に向け、引き続き、着実なごみ減量・リサイクル推進を図っていく。



⑨家庭ごみに占める資源物の割合

定量目標	目標・基準	実績
令和12年度（2030年度）に30%以下にする	30%以下 （令和12年度）	45.7% （令和7年度）

- ・ 令和7年度の家庭ごみに占める資源物の割合は45.7%（前年度比+0.2%）となり中間目標である35.0%（令和7年度）と大きな乖離が生じている。
- ・ 最終目標値の達成に向けて、引き続き一層の分別徹底に取り組む必要がある。



※令和5年度より製品プラスチック一括回収を全市で開始したことに伴い、当該年度から製品プラスチックを資源物として計上

⑩環境基準の達成状況

定量目標	目標・基準	実績
大気、水、土壌及び騒音に関する環境基準（二酸化窒素についてはゾーン下限値）を達成する	環境基準の達成	大気汚染・水質汚濁・騒音に係る基準について 一部非達成 (令和7年度)

- ・ 大気環境については、光化学オキシダントを除き、市内19か所全ての測定局で環境基準を達成しており、おおむね良好な状態に保たれている。
- ・ 水環境については、全体として年々改善されている傾向にあるが、一部河川についてはBOD（生物化学的酸素要求量）、湖沼についてはCOD（化学的酸素要求量）や全燐、一部海域についてはCODの環境基準が達成されていない箇所があり、引き続き、工場・事業場の排水規制を行うとともに、監視を継続していく必要がある。
- ・ 騒音については、自動車及び新幹線鉄道に関しては基準を達成していない箇所があり、引き続き、関係機関等による騒音低減対策等に取り組む必要がある。

【参考】昨年度中間評価を行った項目

※令和7年度開催の審議会資料より（再掲）

② みどりの総量

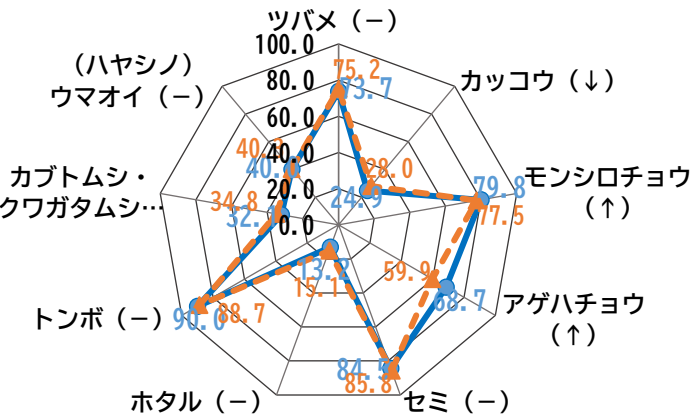
定量目標	目標・基準	参考（中間評価時）
みどりの総量（緑被率）について、現在の水準を維持・向上させる	78.4% （令和元年度）	78.7% （令和6年度調査）

③ 猛禽類の生息環境

定量目標	目標・基準	参考（中間評価時）
生態系の頂点に位置し、良好な里地里山環境の指標となる猛禽類（オオタカ・サシバ）の生息環境を維持・向上させる	オオタカの生息適地： 2,632.8ha サシバの生息適地： 634.1ha （令和2年度）	オオタカの生息適地： 2,691.1ha サシバの生息適地： 376.1ha （令和7年度調査）

⑤ 身近な生きものの認識度

定量目標	目標・基準	参考（中間評価時）
身近な生きもの（9種）について、全ての種における市民の認識度を現在よりも向上させる	前回調査結果以上 （令和元年度）	下記のとおり （令和6年度調査）



--- 令和元年度（現行計画の基準年）

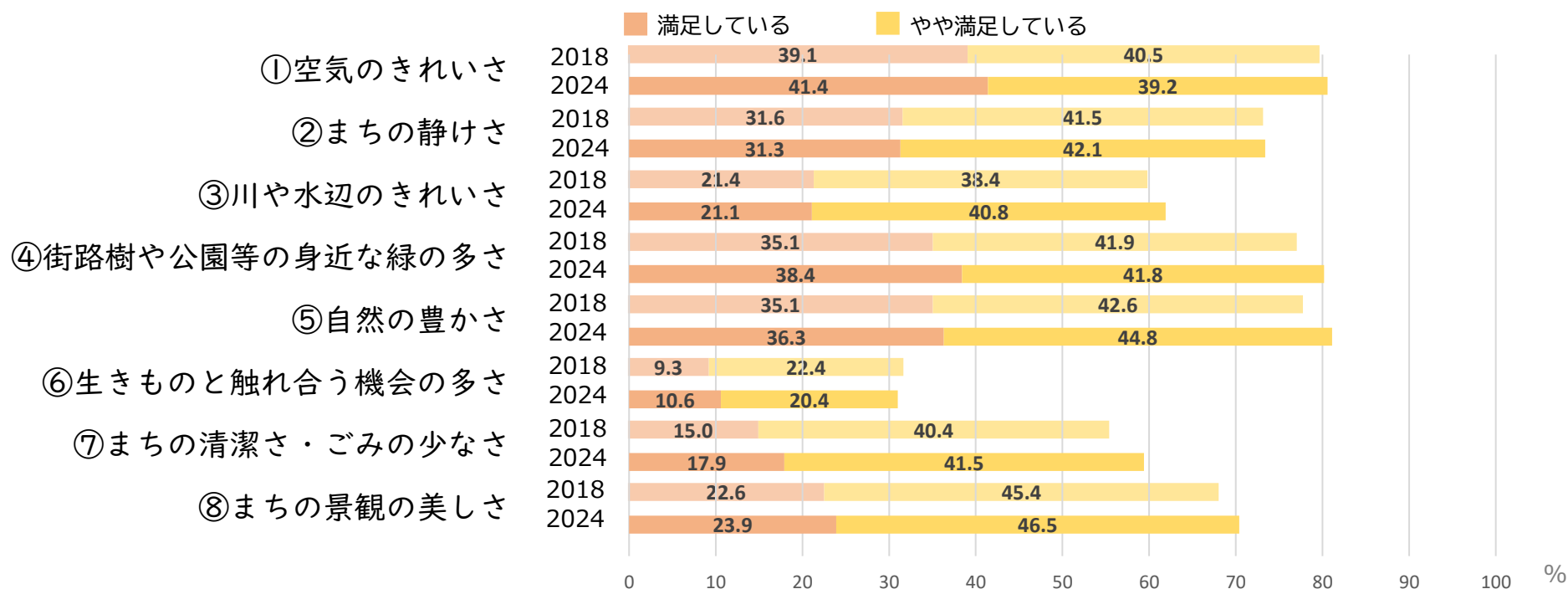
— 令和6年度（今回の調査結果）

凡例 令和元年度と令和6年度の差
(-) : ±2%未満
(↑) : +2%以上
(↓) : -2%以下

9項目合計900%中の値
令和元年度：505.3%
令和6年度：506.9%

⑪ 環境に関する満足度

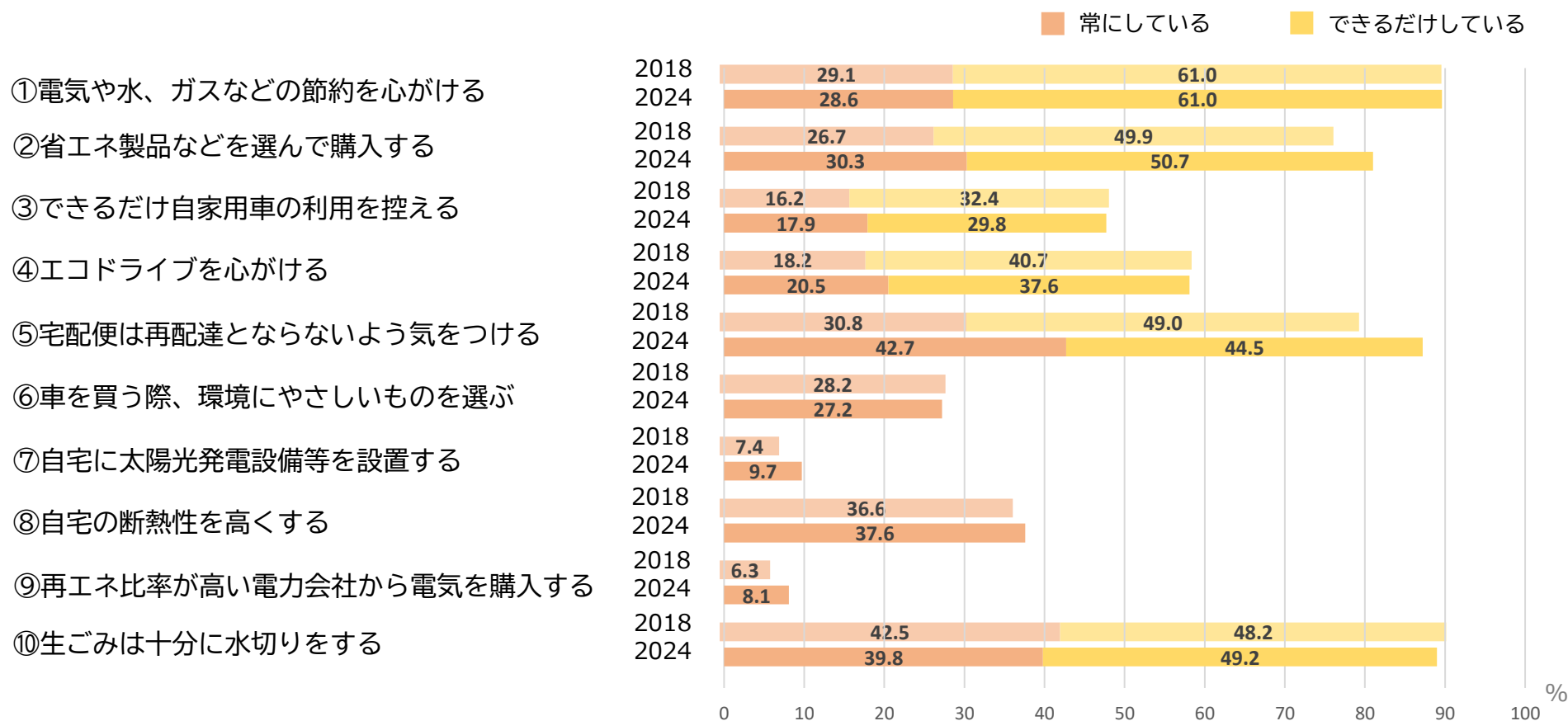
定量目標	目標・基準	参考（中間評価時）
市民の「環境に関する満足度」（8項目）について、全ての項目における満足度を現在よりも向上させる	前回調査結果以上（平成30年度）	8項目中7項目で向上（令和6年度調査）



8項目合計800%中の値
 2018年度：522.4%
 2024年度：537.9%

⑫ 日常生活における環境配慮行動

定量目標	目標・基準	参考（中間評価時）
日常生活における市民の環境配慮行動（25項目）について、全ての項目における実践割合を現在よりも向上させる	前回調査結果以上（平成30年度）	23項目中13項目で向上（令和6年度調査）



※設問⑥～⑨について、2024年度調査では「常に行っている」を「既に行っている」に、「できるだけしている」を「今後したいと思う」に選択肢を変更

※設問⑥～⑨について、2018年度調査では「できるだけしている」という選択肢がない

⑫ 日常生活における環境配慮行動

